

「ホームページを用いた競技力の向上について」

兵庫県高等学校体育連盟研究部
兵庫県立須磨友が丘高等学校
教諭 岩田 正人

1. はじめに

本県は、日本列島のほぼ中央に位置する近畿地方に属し、北は日本海、南は太平洋に面した人口約560万人の自然豊かな県です。県内各地で古くから製造業をはじめ各種工業が盛んで、阪神工業地帯の一角として発展してきました。加えて、神戸港が古くから開港し、流通の発展と共に諸外国との交易により、多くの文化交流がなされ、県民が常に新しい視点で多くの情報にふれる機会に恵まれた地といえます。

本県では約260校、6万人の生徒が高体連に加盟しています。しかし、種目によっては学校単位でのチーム作りが困難となるなど、昨今の少子化は本県の高等学校スポーツにも少なからず影を落としています。また、指導者不足などから廃部に追い込まれたり、優秀選手の県外流出も目立つようになりました。

そこで、中学校と連携した合同練習会や講習会を通して部活動の活性化を図ってきました。また、地域単位でスポーツに親しむ「スポーツクラブ21ひょうご」を実施し、幼いときからスポーツの楽しさにふれ、多世代とのスポーツ交流を通して、豊かな人間形成を目的とした取り組みを推奨しています。

本県の高等学校スポーツにおいては陸上競技や水泳競技をはじめ、多くの種目で全国でもトップクラスの成績をおさめ、過去にも多くのオリンピック選手を輩出してきました。現在も2006年の「のじぎく兵庫国体」に向けて、高校生の年齢層を中心に強化が進んでいます。

そこで、その一役を担うべく高体連研究部では、「兵庫県高体連公式ホームページ」を平成12年度より立ち上げ、少しずつではありますが内容の充実を図り、競技普及、競技力の向上を主眼に、より多くの人々が情報にふれ活用できるように努めています。

以下、ホームページ立ち上げから現在までの4年間の各種取り組みについて報告いたします。

2. 実施経緯

(1)ホームページの開設

本県のスポーツ、特に高等学校スポーツにおいては前述のとおり、少子化による生徒の減少、また、子供の気質の変化による部活動離れ、加えて、指導者の高齢化、専門指導者の減少等が顕著にみられました。追い打ちをかけるように平成7年に発生した阪神・淡路大震災で施設が倒壊し、当時は残った学校のグラウンド、運動のできる公園などは避難所として利用され、ますます、子供たちから「体育」「運動」「あそび」「スポーツ」といっ

たものが切り離されました。これに歯止めをかけるため、震災からの復興も流れに乗りはじめ、街に活力が戻りつつあった平成12年度に、当時兵庫県高体連会長であった吉井宏一郎氏指導のもと、高体連研究部が中心となって「兵庫県高等学校体育連盟公式ホームページ」を開設しました。(図1)

現在は各都道府県共に、高体連や各競技団体、協会等でホームページを利用した情報提供を実施されていることと思いますが、当時としては全国的にみても充実したものは少なかったように思います。

そのような状況下、考案段階から開設当初にかけて、ホームページをどのように活用すべきかが最大の懸案事項となりました。一般的には、大会の日程等のスケジュール、試合結果やランキング等の速報など、情報提供には大きな利便性を感じます。本県のホームページもそれにたがわず競技普及の面には大きな効果が認められています。

しかし、今回の発表課題である競技力の向上に直接効果のある内容を考えたときに、構成上困難な課題が山積していました。加えて、社会情勢からみても、まだまだインターネットの普及、情報処理の知識、技術的な面において一部の者を除いてスタッフは明らかに不足していました。高体連研究部で一括してすべてのデータを管理し、更新させていくことは不可能であり、各専門部において情報処理の分野に通じ、なおかつ競技に精通したweb管理担当者の配置が必要不可欠でした。

(2)ホームページ充実への各種問題点

まず第1は、各専門部にホームページの内容充実に取り組んでもらうことでした。前述のとおり、情報処理能力の高い管理担当者を有する専門部は飛躍的に充実し、リアルタイムでの情報提供に他府県の関係者からも「兵庫のホームページが最も情報が速い」との声を聴くほどです。しかし、一方で競技人口が少なく県内指導者の数が限られる種目ではホームページ作成にまで手が回らない場合が多く、競技会の記録のみを研究部が代わりに更新するといったケースもみられました。専門部委員長会議や、代表者会議の度にホームページの案内をおこない協力を求めましたが、当初は「難しい」という声の方が多かったように思います。競技間格差は現在も存在し、その解決に努めています。

第2は、ホームページ自体の存在が県下の関係者、高校生になかなか浸透せず、せっかくの情報に触れる機会が失われてしまうことでした。

そこで、平成13年度に入って各専門部に文書を発送し、まず、PR活動に力を入れました。監督者会議での選手への公開を依頼したり、プログラムにアドレスを表示し啓発しました。また、14年度にはポスターを作成し、県下一斉の体育主任会で配布、各学校で

図1 新聞発表記事(ネット)

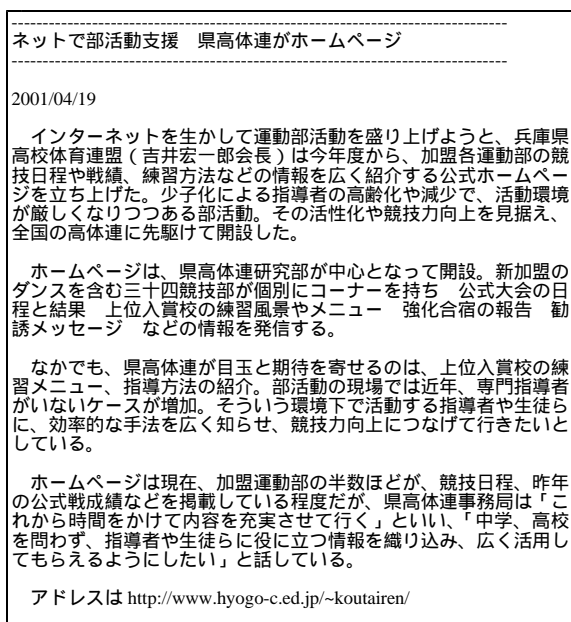


図2 開設当時のアクセス状況

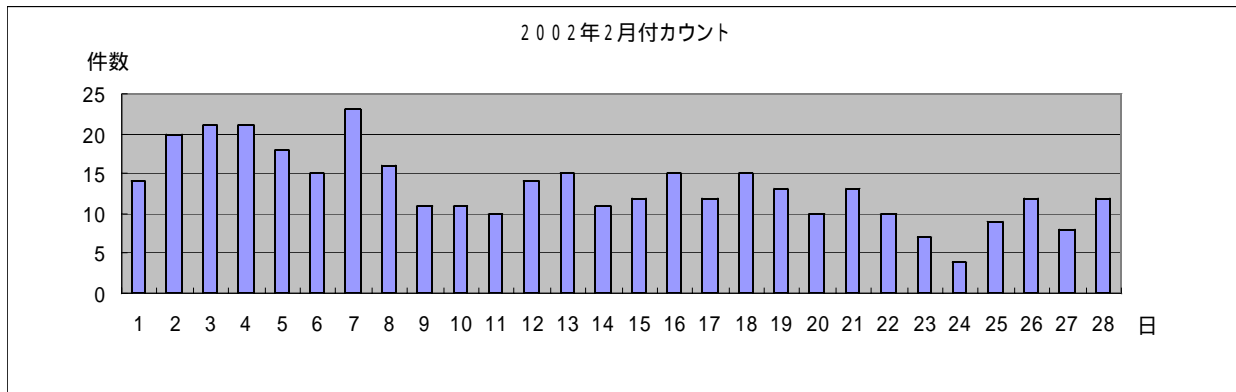
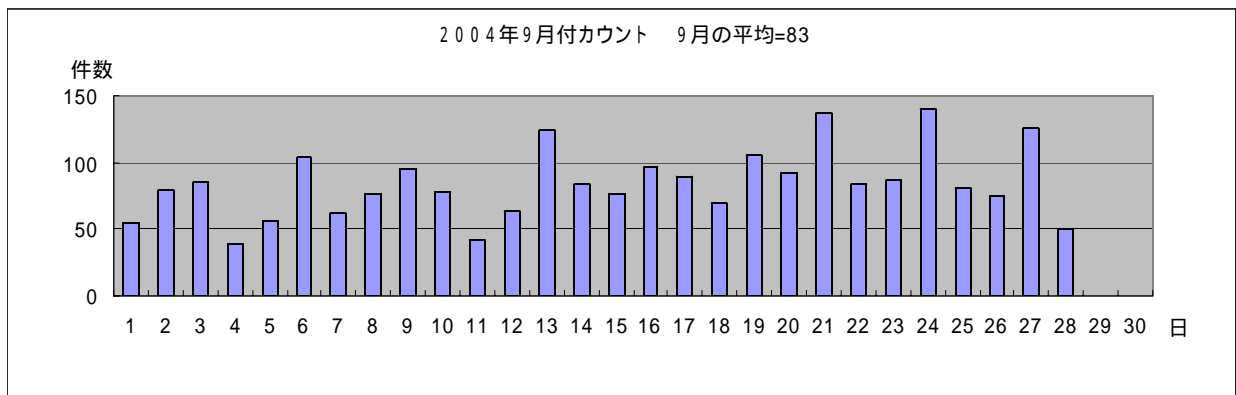


図3 現在のアクセス状況(2004年9月29日現在)

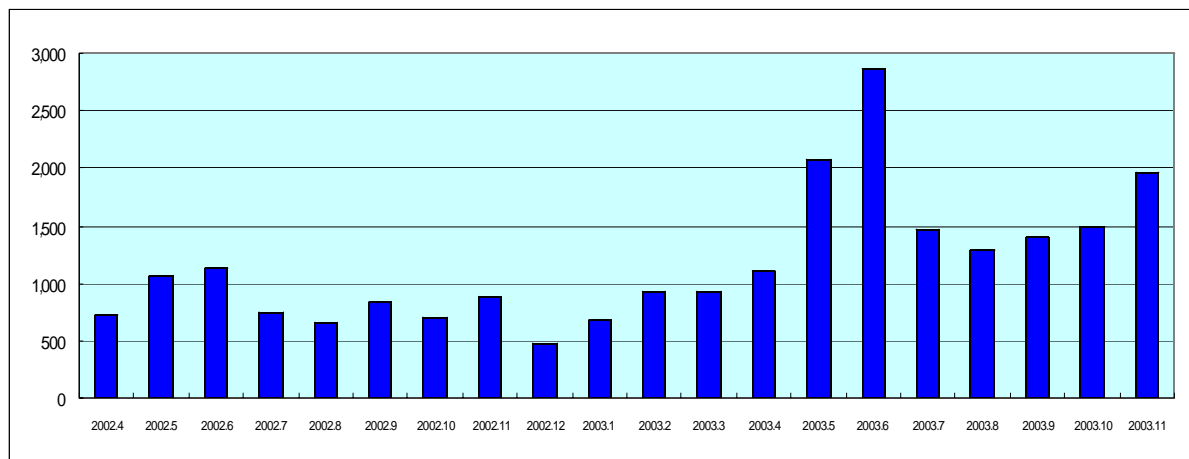


の掲示、宣伝を依頼しました。図2, 3からわかるように、活動の甲斐あって、その後のアクセス数は飛躍的に向上し、周知されてきています。(参考: アクセス状況は表紙からのカウント数であり、各専門部のページへ直接リンクしているアクセス数は、月平均1000件を超えています。)

しかし、見る人が増えれば増えるほど、ニーズが多様化し、見る人にとって本当に役立つ、満足できるものを作っていかなければなりません。

図4の月別推移からも読みとれるとおり、県内大会、全国大会等がおこなわれる時期は

図4 利用状況(月別推移)(2002年4月~2003年11月)



非常に多くのアクセスが記録されています。このことは、ホームページに試合結果や自分の成績が掲載されていることに対して、選手である高校生をはじめ関係者の興味をひくものであることの証であると思われます。

当初の展望にあるように、単なる「記録集」「速報」としてのホームページではなく、ホームページをみることで「このスポーツをやりたい」「この学校へ行けばあの競技の選手になれる」などの競技普及の面や、選手がいつでも最新のスポーツ技術、トレーニング方法を目にし、また、指導力の向上に役立つ練習メニューやレフェリング等の指導技術の紹介など、競技力の向上につながる情報を提供することが必要なのです。アクセス数も向上し、ホームページの役割を一部果たしつつある現在、以上のような必要課題に改めて目を向けて、特に競技力向上の分野で県民にとって役立つ、兵庫スポーツの成績の向上、選手の能力、資質の向上に役立つものであることがさらに求められます。

(3)内容の充実・精選

競技力向上の観点に立った本研究部の取り組みとしては、各専門部でおこなわれている選抜強化指定チームの強化合宿練習報告書をホームページに掲載することです。

本県にも全国レベルのチームが多数存在し、そのチームの練習方法等には多くの興味注がれているところです。しかし、ホームページ作成にあたり実施したアンケートから、専門委員長、あるいは指導者から、それぞれの持つ指導法、選手の育成方法について公開することは、「実際に試合相手となるチームや、web上で県外の選手、指導者が目にすることに抵抗がある」との意見を多く聴くこととなりました。これは、もっともな意見であり、研究部員の中でも一様に同じ意見が寄せられました。

そこで、単独チームではないが、県内の最高レベルの選手が集う選抜チームの強化合宿について、練習の計画、内容、できれば少しでも詳しい指導ポイントなどを報告書の中に盛り込み公開してもらえないかを各専門部に打診したところ、多くの賛同を得ることができました。合宿に参加しない選手や指導者が、県内最高レベルの合宿において、練習・食事・体調管理・安全への配慮などがどのように計画されているのかホームページをみることで、自らの練習に、あるいは指導に役立てることができるわけです。個人的技術の習得からセットプレーなどの集団技能についての練習パターンなど、様々な情報をみることができ、いかなるレベルの選手にとっても必要な情報を

図5 強化合宿報告書

選手強化合宿報告書（記入例）

種目名()
期間 平成15年 月 日() - 月 日()

練習内容	
目的	記入例 団体強化に向けた選手の意識改革と組織体制の指導 基礎的・基本的技術の再確認及び競技力の向上 技術習得のための、身体能力の向上及び基礎体力の強化
月	午前 身体能力要素(筋力トレーニング・食事) 技術的要素(部分練習・総合練習・ゲーム) 戦術的要素(講義形式・実践形式) 精神的要素(メンタルトレーニング) 練習ポイント
日	午後 上記内容について練習の時間配分(頻度)や目的など練習メニューや指導方法(主眼)等をわかりやすく記入してください。
月	記入例 06:30 起床 07:00 朝練(ウォーキング・軽運動を中心としたコンディショニング) 07:30 朝食(炭水化物を中心に献立) 08:15 コンディショニングノート記入 08:45 準備運動(柔軟性を中心に) 09:30 技能と練習法() 10:30 休憩 10:40 技能と練習法(団体及び個人の部分練習・基礎練習) 12:30 整理運動(ストレッチを中心に)
日	12:45 昼食(タンパク質・食物繊維中心) 14:00 休憩 14:00 準備運動(筋力系を中心に) 14:45 技能と練習法() 15:30 休憩 15:45 技能と練習法(団体及び個人の部分練習・基礎練習) 17:00 休憩 17:15 試合形式練習(総合練習) 18:15 整理運動 19:00 夕食(全品目バランスを考えて) 20:00 ミニゲーム(イメージトレーニングを含む)
月	
日	
現状と課題 記入例 基礎トレーニングの徹底、構成の繰り返しによる演技の価値点向上及び選手の意識改革。現段階での、強化選手の基礎体力向上による底上げと演技の安定性。	

多くの賛同を得ることができました。合宿に参加しない選手や指導者が、県内最高レベルの合宿において、練習・食事・体調管理・安全への配慮などがどのように計画されているのかホームページをみることで、自らの練習に、あるいは指導に役立てることができるわけです。個人的技術の習得からセットプレーなどの集団技能についての練習パターンなど、様々な情報をみることができ、いかなるレベルの選手にとっても必要な情報を

得ることができることは開設当初の目的に近づくこととなります。

現在、ホームページ上のメインページ（表紙）で図5の「強化合宿報告書」の様式を即時ダウンロードできるようにしており、詳しい合宿報告を掲載している専門部が徐々に増えてきています。

その他に、審判技術（レフェリング）の紹介、ルール改正等の情報など競技を指導する上で欠かせない情報に力を入れている専門部も多くみられます。このことは、試合の勝敗を決める大きな要素の一つであり、指導者にとって大変有効かつ必要な情報であるといえます。

前述の強化合宿報告書等の情報は、選手のモチベーションの向上や指導者への刺激となり日々の練習に変化をもたらし、競技人口増加のためのジュニア層の拡大、チーム数の増加、指導者の育成など普及面での効果とともに競技力向上の一助となることを確信しています。

今後の課題として、競技間の格差を少なくし競技の特性に応じた有用な情報提供について、一層の内容の精選をはかる必要があると思われれます。

(4)実践例

バレーボール部

本県ホームページで情報提供の分野で最も進んだページといえます。試合会場から携帯端末を利用して試合内容、試合結果の即時提供につとめています。リーグ戦等では、「前日の結果を見て次の日の試合を選んで会場に向かえます」「近畿で兵庫県のページの更新の速さは群を抜いていて非常に役立っています」との声が利用者から寄せられています。管理担当者に話を伺ったところ、「リアルタイムの情報提供に努力し、満足のいくページ作成ができています。」「しかし、競技力向上の側面からみた場合、内容的には不十分であり、選手、指導者のニーズに応えられていない」という回答を得ました。今後の検討課題として競技力向上において取り組んでいるところであり、今後の更なる充実に期待ができています。

バスケットボール部

競技力向上の面で選抜チームの合宿報告を随時更新しています。また、指導者の育成、特にレフェリング技術の向上のためにコーナーを設けています。特にバスケットを指導する際に問題となってくるルール、各種ファウルについて正しい認識を持ち、適切な指導をおこなうことが選手の競技力の向上に大きく影響すると思われれます。この面で、バスケットボール専門ではない指導者、あるいは経験の浅い指導者にとって非常に役立つものと思われれます。

卓球部

卓球部は合宿報告に加えて、実技講習会の内容を細かく掲載しています。講習会に参加できなかった指導者、選手にとってわかりやすく詳しい説明がなされています。また、競技規則や規定を明記、トーナメント表の作成方法のソフトをダウンロードできるコーナーなど試合の運営等にも役立つ内容が充実しています。新しいルール等については特にコン

テンツをもうけピックアップして利用者の目にとまるようにつとめています。その他、他府県の連盟、協会のページにリンクできるなど、情報量も豊富で本県ホームページであらゆる側面において最も進んだページであるといえます。

空手道部

空手道部は結果の速報に加えて、審判技術をモデルを用い写真で掲載しています。判定のジェスチャーが非常にわかりやすく、審判技術の向上には非常に役立つと思います。また、唯一、メールによる質問、意見等を受け付けており可能な限り回答しています。管理担当者が私立学校に勤務しており、県のサーバーを利用している公式ホームページの更新に対して非常に不便な環境の中で、これだけのページの充実が図られている点で素晴らしいものといえます。

3 . ま と め と 課 題

今回の発表にあたりホームページを整理、検討した結果、普及面に比べ競技力向上の面ではまだまだ発展途上にあり成果が確認されるにはもう少し時間が必要であると考えています。今後、研究部では合宿報告書の充実、講習会の案内や内容の掲載の他、ホームページ・メール等を利用し各試合への登録、申し込み業務の簡素化等、指導者の指導時間の確保や負担軽減を図りたいと考えています。また、現場の意見、指導者からの質問、一般の声をメール・掲示板の利用で受け付けられないかを検討しています。これは、質問、疑問に直接返答でき、最も利用者のニーズを満たせる手段であることは間違いありません。しかし、一般のホームページにみられるように、不適切な書き込み、誹謗中傷、プライバシーの問題等が予想されます。現に、ある協会のホームページには試合における審判へのクレームが保護者から寄せられたり、敵チームの選手を实名でののしったりしているケースが見られています。常にページを管理し、これらの不適切なものに対して削除、指導していけるだけの人員の配備は、学校教員が管理担当をしている現状では非常に困難なものであるといえます。

各専門部への携帯端末の配備により、情報のリアルタイム性は向上すると思います。また、高体連研究部にWeb担当者を配置することで各競技の統括、指導、競技間格差の解消等に役立つのは明らかです。しかし、これら研究予算や人事の問題等は即時に解決できるものではありません。

その他、多くの問題が山積しているのが実情ですが、今以上に利用者にできるだけ多くの情報を提供し、競技力向上の面で利用者が本当に満足できるホームページにするためにより一層研究を重ね「のじぎく兵庫国体」に向け競技力向上の一役を担いたい。